

短報

## 熊本県から初記録となるラン科植物2種

中菌 洋行・前田 哲弥

\*1熊本県博物館ネットワークセンター

キーワード：熊本県，初記録，アキタズムシソウ，ムカゴサイシン

### はじめに

2019年から2020年にかけて、著者らはこれまで熊本県から生息記録のないラン科植物2種を確認した。以下にその確認状況を報告する。

### アキタズムシソウについて

アキタズムシソウ *Liparis longiracemosa* Tsutsumi, T.Yukawa et M.KatoはTsutsumi et al. (2019) により記載されたばかりの新種であり、長らくセイタカズムシソウ *L. makinoana* Schltr.と混同されてきたものである。同論文によるとズムシソウ *L. suzumushi* Tsutsumi, T.Yukawa et M.Katoを含むこれら3種のうち、九州に分布するのはアキタズムシソウのみであり、本種の九州産被検標本の産地として宮崎県五ヶ瀬町が挙げられている。また、本種はこれまで“セイタカズムシソウ”として、九州では福岡県、大分県、鹿児島県に分布するとされてきたが（大分県 2011）、熊本県からの生息情報は見当たらない。

著者の一人、中菌は、2019年6月25日、熊本県八代市泉町葉木（種の保護の観点より詳細な地名はここでは伏せる）において、開花中のアキタズムシソウ1株を発見した（図1）。この時点ではまだアキタズムシソウは記載されておらず、“セイタカズムシソウ”として前田に報告している。見つかった株は花の形状や色彩において、後にTsutsumi et al. (2019) により示されたアキタズムシソウの特徴によく一致する。

本種が見つかった場所は、チドリノキ *Acer carpinifolium* Siebold et Zucc.やヤマトアオダモ *Fraxinus longicuspis* Siebold et Zucc.が優占する落葉広葉樹林の林縁部で、同所的に同属のクモキリソウ *L. kumokiri* F.Maek.が10株ほど見られたが、こちらは同年6月6日には開花のピークを迎えており、25日には既に全ての株が花期を終えていた。

2日後の6月27日に前田と現地を再訪したが、アキタズムシソウは他に見つからず、花を2輪だけ摘み取り、70%アルコール標本として持ち帰った。

翌2020年には、中菌が6月7日に現地を訪れ、クモキリソウとアキタズムシソウがともに10株ほど開花しているのを確認した。両者は花がなければ区別がつかないほど酷似しているため、2019年にクモキリソウと同定していた未開花株の中に複数のアキタズムシソウが含まれていたようである。しかしながら生息数はきわめて少なく、加えてニホンジカ *Cervus nippon* Temminckによるものと思われる踏みつけ痕や食痕が認められた（図2）。本種は根が非常に短く、わずか



図1 アキタズムシソウ。2019年6月25日撮影。

2020年11月受付 2021年2月受理

\*1熊本県宇城市松橋町豊福1695

な外圧で簡単に地面から抜けてしまい、枯死にいたる。踏みつけにより既にしおれかけていた1株と、花を2輪つけていた小型の1株の計2株を持ち帰り、さく葉標本とした。標本は熊本県博物館ネットワークセンターにおいて登録・保管している。



図2 アキタズムシソウの踏みつけ (A) と摂食 (B) による被害。2020年6月7日撮影。



図3 ムカゴサイシンの確認状況。2020年6月6日撮影。

### ムカゴサイシンについて

ムカゴサイシン *Nervilia nipponica* Makino は高さが5cmほどしかない小さなランで、環境省のレッドリスト (2020) において絶滅危惧IB類とされている。国内では関東地方北部から沖縄県にかけて局地的に分布し、九州においては標本や文献記録も含めて長崎県、佐賀県、大分県、宮崎県、鹿児島県の各県から分布が報じられているが (Gale et al. 2007; 佐賀県 2020), 熊本県からの記録はみられない。

著者の一人、中菌は、2020年6月5日、熊本県阿蘇郡高森町高森 (種の保護の観点より詳細な地名はここでは伏せる) において、開花中の本種1株を発見した。発見したのは夕刻で、既に辺りは暗くなり始めていたため、翌6日に再び現地を訪れて確認したところ、放牧地脇の1本のハルニレ *Ulmus davidiana* Planch. var. *japonica* (Rehder) Nakai の根際より、近接して生えている開花中の5株を確認した (図3)。本種には近年になって Gale et al. (2015) により記載された近似種ムカゴサイシンモドキ *N. futago* S.W. Gale et T. Yukawa が知られており、後者はより分布が局限されるものの、多くの産地でムカゴサイシンとともに生えているようである。今回確認された5株のうち1株を持ち帰って確認したが、唇弁の色彩および形状、毛状突起の配置などから、少なくともこの株についてはムカゴサイシンであると同定された。持ち帰った株はさく葉標本とし、熊本県博物館ネットワークセンターにおいて登録・保管している。

なお、今回確認された場所から直線距離で2kmほど離れた阿蘇野草園において、2015年6月13日、本種とみられるラン科植物の開花株が、させぼパール・シー株式会社の石川智昇氏により撮影されている (図4)。あらためて当時の状況を同氏に伺ったところ、確認したのは1株のみで、植栽されたツクシシャクナゲ *Rhododendron japonoheptamerum* Kitam. var. *japonoheptamerum* の群落近くに生えていたとの事であった。参考記録として併せて報告する。



図4 ムカゴサイシンとみられるラン科植物。2015年6月13日 石川智昇氏撮影。

## 謝辞

アキタスズムシソウの熊本県内における記録についてご確認いただいた（有）熊本植物研究所の佐藤千芳氏、および、ムカゴサイシンとみられるラン科植物の確認状況の公表を快諾いただいた石川智昇氏に厚くお礼申し上げます。

## 引用文献

Gale, S. W., Yukawa, T. and Kuroiwa, N. 2007. Studies in Asian *Nervilia* (Orchidaceae) I: neotypification and circumscription of *N. nipponica* in Japan. Kew Bulletin 62: 85–94.

Gale, S. W., Li, J., Kinoshita, A. and Yukawa, T. 2015. Studies in Asian *Nervilia* (Orchidaceae) V: *N. futago*, a cryptic new species from southwest Japan confirmed by morphological, cytological and molecular analyses. Systematic Botany 40: 413–425.

環境省 2020. 環境省レッドリスト2020. URL : <http://www.env.go.jp/press/files/jp/114457.pdf> (最終確認日 : 2020年11月16日) .

大分県 2011. セイタカスズムシソウ. レッドデータブックおおいた2011 大分県の絶滅のおそれのある野生生物. URL : <http://www.pref.oita.jp/10550/reddata2011/02/ss223.html> (最終確認日 : 2020年11月16日) .

佐賀県 2020. 佐賀県レッドリスト2020 (植物編). URL : [https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00378355/3\\_78355\\_188109\\_up\\_saveaq16.pdf](https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00378355/3_78355_188109_up_saveaq16.pdf) (最終確認日 : 2021年1月29日) .

Tsutsumi, C., Yukawa, T. and Kato, M. 2019. Taxonomic Reappraisal of *Liparis japonica* and *L. makinoana* (Orchidaceae). Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Ser. B, Botany 45(3): 107-118.

